

CHIT 9 SE

2004
SEPTEMBER

特集

子どもの視点で 見えてくるもの

「子どもまちなみ探検隊」と歩く
千歳川と都市景観

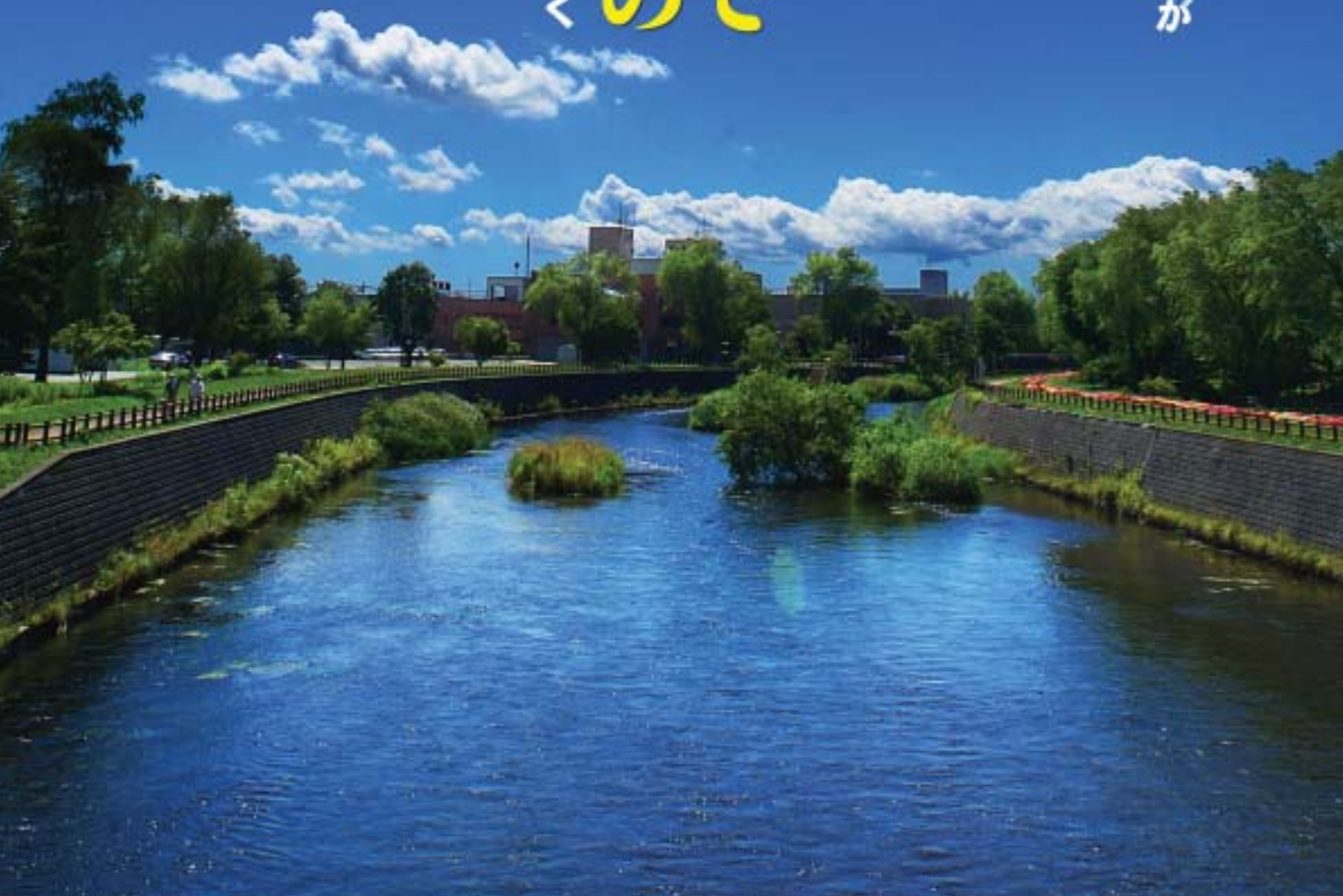
市役所からのお知らせ

6 都市経営会議の活動が
スタートしました

7 平成16年度
千歳市敬老会

7 JR千歳駅周辺で
「電線類地中化事業」
が始まります

8 父子家庭に
医療費の助成をします





適度な弾力性のある
歩きやすい散策路



快晴の中、いざ出発！

昨年9月、北海道開発局（千歳川河川事務所）は、千歳川沿いに散策路を設置しました。この散策路は、市役所付近からサーモン橋（30号通）まで続き、現在、ウォーキング、ランニングや犬の散歩など、たくさんの方に親しまれています。

子どもまちなみ探検隊の2日目は、子どもたちがカメラと画板を手に、この散策路を探索。4グループに分かれ、一人ひとりが「赤ちゃん」「おじいちゃん」「や」「鳥」になりきるなどの役割を持ち、千歳川沿いの景観を見て歩きました。当日は、そよ風の吹く心地よい快晴で、川の音を聞きながらの探検。自然と子どもたちの足取りも軽く、真剣に参加するその横顔にも、時折、笑顔がこぼれます。



水の音、緑あふれる散策路
千歳の景観ここにあり



小さな虫見し
て虫めだ記録しす



これは、市民から寄せられた手紙の内容の一部です。
住民の「まち」に対する愛着は、地域の歴史やまちなみなどの『都市景観』から生まれることが多く、特に「水と緑の景観」は、まちづくりに欠かせないものです。
市は、将来を担う子どもたちに、まちづくりや景観について学んでもらおうと、8月9日と10日の2日間、夏休み中の小学生を対象としたジュニア景観士講座『子どもまちなみ探検隊』を行いました。
今回は、この探検に同行し、千歳川の周辺に焦点を当てた「水と緑の景観」について特集します。

『2年ほど前に、千歳に引っ越してきました。健康のため早朝ウォーキングをしています。青葉公園』と「千歳川河畔」の美しさに感激の毎日です。』





子どもの視点が 捕らえたもの

子どもたちの発見は、生き物だけではありませんでした。

- 捨てられたビニール袋やペットボトル。川底の空き缶。
- 橋の裏側に、びっしりと書かれたイタズラ書き。
- JR高架下に無造作に放置された自転車。

中でも悲惨なのがハルニレ公園近くの木製階段で発生した放火跡でした。

千歳川河川事務所の話では、7月17日に起きたことで、電話帳に火をつけて、立ち去ったものだそうです。同じ場所では、6月にも、若者の焚き火によ



る火災が発生、消防が駆けつけることもありまし。ここは、浅瀬がくいで囲まれ、普段子ども連れの家族が川で親しむ光景をよく目にする場所。市民の憩いの場が、心ない行為によって破壊されることは残念なことです。

イタズラ、不法投棄や公共物の破壊、このようなモラルの欠落は、子どもの目にどう映るのでしょうか。



市民が築く「都市景観」

戦後の復興期から高度経済成長期を経て、わたしたちのまちづくりに対する意識は「量・機能的なものから、質・美観をともなうものへと移り変わりつつあります。

市は現在、「ちとせ都市景観ガイドプラン」を基本方針とし、「きれいな空とやわらかな水辺、ひとにやさしく美しいまちなみめざして」を目標に掲げたまちづくりを進めています。

魅

力的なまちづくりには「景観をつくる」景観をととのえることはもちろんですが、「景観をまもる」「景観を損なうものをとりのぞく」ことも大切です。そして、何となくもそのためには、市民皆さんの協力が不可欠です。

8月1日、「清流と緑を守る市民の会」は千歳川周辺の草刈と清掃活動を行いました。昭和46年から毎年行われている行事で、各町内会などから、約千人の参加がありました。



8月1日の「千歳川清掃」の一コマ

千歳エアポート花ロード

空港に訪れる方を温かく迎えるよう、南千歳駅周辺の国道36号に花を植える行事。(主催・千歳青年会議所/7月15日実施 今年で2回目)



花いっぱいコンクール

数多くの市民・団体が各部門ごとに参加する毎年恒例の行事。市内全域で、見事な花壇がいっせいに集います。(主催・千歳市公園緑化協会)

景観づくり

「これぐらいは許されるんだ」「大人はひどいことするね」「子ども」とひとくりにしていても、感じ方はさまざまです。景観が子どもたちの成長に与える影響は、決して少なくありません。



ママチ川と千歳川の合流部に設けられた石の橋。一見、情緒あふれる風景でも、探検隊の目には、「小さい子どもや車いすの人には渡れないネ」のひとこと。

探検報告

おじいちゃんが休める「ベンチ」がほしいな。秘密基地にしたいところ発見！	ごみも捨てられていないきれいな川だ。周りでみんな遊んでいたよ。川の水がひかっているー
バリアフリーのかいだん。急だけど、スロープがついていた。おとしよりにべんり(な散策路)だ。	やっぱり自然はいいね～。いやされる～カラフルな花がキレイ

「自然」

「景観」という言葉からは「自然」を連想しがちです。今回の子どもたちの探検報告の中でも「自然がいっぱい」「花壇がきれい」「木がたくさんある」「草がふわふわで気持ちよさそう」「川の水がきれい」との感想が多くありました。



「自然」を辞書で調べると、「人為の加わっていないもの・あるがままのさま」となっています。そう考えると、わたしたちが愛着を感じる水や緑の景観の多くは「自然」ではないことがわかります。

街路樹、公園、花壇や川岸、あるいは広大な農村風景さえも、すべてそこに住む人が住みやすいように、手を加えてきたものなのです。

『景観』の視点から見ると、「まちなみの自然を守ることは、これまでそこに住んできた人、古くは千歳の先人たちが育んできた、知恵や歴史を守ることであります。

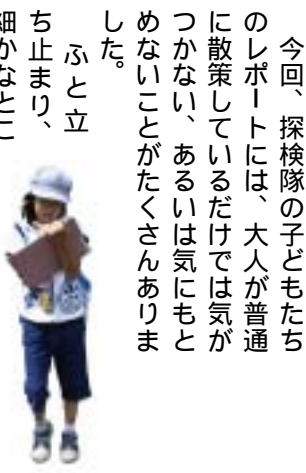
冒

冒頭で紹介した市民からの手紙にはつぎのようなくだりがあります。

『千歳川は流れが速く、水がきれい、河畔の景色も申し分ありません。しかし、淀みに溜まったごみなどが悪臭を放っていたり、空き缶が川底に埋もれていたります。』

もつとこの川を市の誇りにして、行政と市民の協力です。いつまでも心洗われる清流を保ちたいと願っています。』

千歳川のみならず、街路樹、公園などの緑を、美しい景観として守り続けることも、千歳への愛着心を自ら育む、ひとつの「まちづくり」ではないでしょうか。



ふと立ち止まり、細かなところからまちの様子を見ることが、まちづくりに参加する第一歩でもあります。

日ごろから、ウォーキングや犬の散歩などで、まちなみを散策している人も多いと思いますが、たまには子どもの視点でまちなみを歩いてはいかがでしょうか。きっと普段とは違った景観が見えてくるはずです。

「探検＆発見マップ」を公開！

と き・9月21日(火)～10月1日(金)
ところ・市役所1階市民ロビー

●子どもまちなみ探検隊やまちづくりに関する問い合わせは・・・
企画部まちづくり推進課
都市計画係(内線301・321)
<http://www.city.chitose.jp/machi/keikan/index.html>